

SS 探究 II C

環境セミナー

令和5年10月20日（金）に、長崎大学環境科学部准教授（総合生産科学域）の利部慎（かかぶまこと）先生を講師としてお招きし、2年生家政科を対象とした「環境セミナー」を開催しました。「身近な水」を使った科学的リテラシーの向上と水と環境との関係についての理解を深めるという目的のもと実施しました。セミナーは先生の個性的な自己紹介ではじまりました。また「Response Card」は、生徒にとって初めてで、先生の「つかみ」は完璧でした。講義では、地球上の「水」の分布と人間が利用できる水の割合や長崎における水の利用状況等の説明がありました。特に、生徒は長崎県の水道料金との他地域との違い（長崎県が高い）について関心が高かったようです。実験では、熊本・山梨・フランスのミネラルウォーターのテイスティングを行いました。同じ水でありながら味が微妙に異なることに気づく体験でした。またその原因が水に含まれている各種イオンの種類や量に由来していることの説明がありました。特に、先生がセミナーの前に大村市内の施設で水道水のサンプリングを行い、その分析結果の提示など身近な場所ということもあり興味も高まりました。次の実験では、水道水に市販の清涼飲料水を数滴入れCOD（化学的酸素要求量）をパックテストで測定をしました。ここでは、少量であっても河川等を「悪環境」にしてしまう可能性の示唆がありました。最後の実験では、生徒が校内で普通に接している「水」を使って汚れの程度をCODのパックテストで調べました。各自で「清潔そうな」水や「汚そうな」水を採水しパックテストで検証しました。測定前のイメージどおりの水や「清潔そうな水」であってもそうでなかったりしたようで、実験（確認）の必要性を再認識したようでした。水と環境問題について考える機会になりました。



左上：講義の様子
右上：テイスティングの様子



左下：実験の様子
右下：パックテストの結果